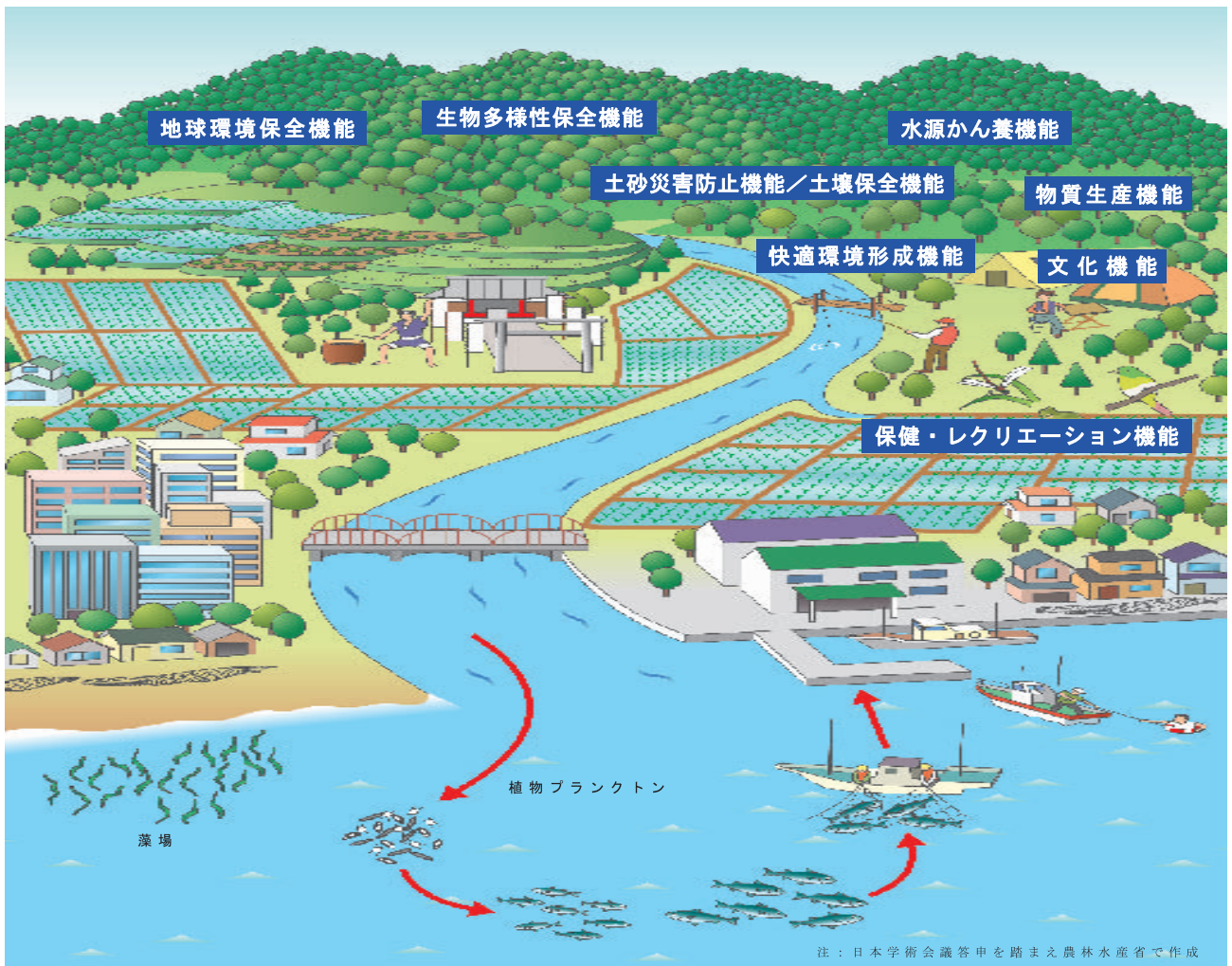


この文書は、森林・林業基本法（昭和39年法律第161号）第10条第1項の規定に基づく平成19年度の森林及び林業の動向並びに講じた施策並びに同条第2項の規定に基づく平成20年度において講じようとする森林及び林業施策について報告を行うものである。

森林のもつ多面的機能



注：日本学術会議答申を踏まえ農林水産省で作成

① 生物多様性保全機能

遺伝子保全、生物種保全、生態系保全

⑤ 快適環境形成機能

気候緩和、大気浄化、快適生活環境形成

② 地球環境保全機能

地球温暖化の緩和(CO₂吸収(1兆2,391億円/年)、化石燃料代替(2,261億円/年))、地球気候システムの安定化

⑥ 保健・レクリエーション機能

療養、保養(2兆2,546億円/年)、行楽、スポーツ

③ 土砂災害防止機能/土壤保全機能

表面侵食防止(28兆2,565億円/年)、表層崩壊防止(8兆4,421億円/年)、その他土砂災害防止、雪崩防止、防風、防雪

⑦ 文化機能

景観・風致、学習・教育、芸術、宗教・祭礼
伝統文化、地域の多様性維持

④ 水源かん養機能

洪水緩和(6兆4,686億円/年)、水資源貯留(8兆7,407億円/年)、水量調節、水質浄化(14兆6,361億円/年)

⑧ 物質生産機能

木材、食料、工業原料、工芸材料

資料：日本学術会議答申「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について」及び同関連付資料(平成13年11月)

注：1) 括弧書きは貨幣評価額であり、機能によって評価方法は異なっている。また、評価されている機能は多面的機能全体のうち一部の機能に過ぎない。

2) いずれの評価方法も、「森林がないと仮定した場合と現存する森林を比較する」等一定の仮定の範囲においての数字であり、少なくともこの程度には見積もられるといった試算の範疇を出ない数字であるなど、その適用に当たっては細心の注意が必要である。

林業・木材産業の活性化を目指して

林業・木材産業の活性化に向けて、全国で様々な先進的な取組がみられます。

このうち、その内容が抜きん出ており、広く社会の賞賛に値するものについては、毎年、秋に開催される農林水産祭で天皇杯等三賞が授与されています。

平成19年度の天皇杯等三賞受賞者の概要を紹介します。

天皇杯

林産部門 出品財 経営（林業）
日吉町森林組合（代表 井尻 浩義 氏）
京都府南丹市

日吉町森林組合は、小規模な森林の間伐を進めるため、森林所有者ごとに必要な施業の内容や収支等を提示し、施業の委託を促して集約化を図る「提案型集約化施業」を実施している。また、生産性の高い利用間伐を実現するため、高性能林業機械の導入と低コストで災害に強い作業道の開設を推進しており、森林所有者に対し間伐材の販売収益の還元を実現している。

今後、低コストで間伐材生産を行うモデルとして、同組合の「提案型集約化施業」が全国に普及していくことが期待されている。



内閣総理大臣賞

林産部門 出品財 産物（乾しいたけ）
小野 九洲男 氏 大分県豊後大野市

小野氏は、高品質な香信づくりを中心とする高い栽培技術を確認し、大分県産のしいたけのブランド化に貢献している。また、人工ほだ場等の生産施設を効果的に導入し、適期収穫を通じ品質の向上等を実現している。

さらに、技術講習会等を通じ大分県全体の技術レベルと生産意欲を高めるとともに、都市消費者との交流や地域産物の販売拡大にも取り組んでいる。

香信：乾しいたけの種類の一つ。傘の肉が薄く、扁平な形をしている。



日本農林漁業振興会会長賞

林産部門 出品財 技術・ほ場（苗ほ）
坂本 信介 氏 熊本県菊池市

坂本氏は、長年にわたる技術の蓄積と豊富な経験のもと、ヒノキ及び広葉樹を中心として、生産量、品質の安定した模範的な苗畑経営を行っており、年間で16万本以上の山行き苗木を生産している。また、小苗から高苗までに対応可能な大型トラクターの開発や広葉樹用の播種機の改良等を行い、作業の効率化や労働の軽減を実現している。

さらに、講習会の講師として積極的に技術の普及に努めるなど、後継者の育成にも積極的に取り組んでいる。

